

令和4年度

学校評価書(学年末)

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和4年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
													0	50	90
I よりよく生きる力を育む指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向け、早期発見・早期解決できる集団づくりが実践されている。	中間期 A	◇生徒・教職員の肯定評価がともに9割以上となっているため、評定をAとした。一学期のいじめの認知件数は2件だったが、それ以後は0となっている。不登校生徒については、2年生で回復の傾向が見られるが、3年生では現状のままである。	生徒2-4	62	29	5	4	0	91			
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆これまでの取組を丁寧に継続していく。特に、毎月の「学校生活アンケート」や学級担任等学年部を中心とした見守り、教育相談を中心に実態把握と個別の対応をしていく。また、不登校生徒については、学級担任や学年部はもとより、養護教諭やSC、不登校等対策職員、SSWと連携し、相談体制を整えた上で、個々に応じた関わりを継続していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報 ・生徒指導部会									
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒同士が「違いを認め合う」人間関係を構築し、楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定しているため、評定をAとした。2学期は学校行事も多く、それぞれが協力し合いながら活動に取り組むことで充実感を味わい、良好な人間関係を築けたことが、高い評価に結びついたのではないかと考える。	生徒1-1	57	35	8	1	0	91			
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆中間期に比べ回答に1や2の評価が増えている。生徒全員が楽しく学校生活を送るために、学校生活において生徒に目を配ることはもちろん、日頃から会話を充実させることで、小さな問題に対してもスピーディーな対応を心掛けなければならない。また、生徒一人一人が目標を持ち、生き生きと活動に挑戦できるよう、個々の生徒に寄り添っていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート									
	③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員の9割以上が肯定しているため、評定をAとした。2学期は、体育祭のパネル制作や応援合戦、文化祭での合唱練習等で、3年生のリーダーを中心に、生徒が主体となって活動した。自分たちが学校行事を盛り上げたという充実感を味わうことのできた生徒が多かったことが伺える。	生徒1-12	56	34	9	1	0	90			
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆3年生は、主体的な活動を通して達成感を味わうことができた。2年生を中心とした新執行部も、今後の学校行事を主体的に作り上げていくことができるように、支援・助言をしていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート									
						保護者1-1	42	52	6	1	0	93			
						教職員3-2	26	63	11	0	0	89			
						保護者2-6	37	53	8	3	11	90			
						教職員4-1	74	26	0	0	0	100			

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 学校に足が向かない生徒に対しては、見守りを続ける中でつながりを持ちつつ、押し付けにならないように、本人の登校したい気持ちを生かすことが大切である。そのためにも、具体的な目標の設定が必要ではないだろうか。
- いじめの認知件数は0であり大変良いと思う。ただ、これで安心するのではなく、水面下でのいじめや差別もあるとの想定で、これからも指導をしていただければと思う。
- 宇和島ではすでに実施されているが、子どもたちの悩み相談をクロームブックを使って実施してみてもどうか。
- 学校行事は生徒も先生も楽しめているようで大変よいと思う。ただ、そのような場においても、苦しい思いをしている生徒はいる。あらゆる活動の中で、生徒の様子を見取り、変化に対する情報交換を密にし、問題の早期発見に努めることが大切である。
- 生徒会活動を生かしながら主体性のある活動を取り入れることで、全体にやる気を起こさせるようにする。まずは、それぞれが役割を持つことが大切である。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

令和4年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
													0	50	90			
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇生徒・教職員ともに8割以上が肯定的な評価をしているため、A評定とした。授業でのクロームブックの効果的な活用法を考え、実践してきた。例えば社会科では、Jamboardを使って松尾芭蕉の足跡と俳句を関連付けて考え、意見交換に役立てることができた。自分の考えを明確にし、互いに練り合うことで、ねらいを理解した分かる授業の実践が進んでいくと考えられる。	生徒2-1	33	53	10	3	0	87						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆主体的な学習の取組に向け、各教科の授業でクロームブックの活用をさらに進めていく。その中で、生徒の思考を深める効果的な課題や発問の出し方を中心に置き、授業展開を進めていく。また、前期に続いて、基礎・基本となる知識の理解が学力の基礎となるため、小テストの継続や少人数での学び合い、クロームブックの効果的な活用法も研究していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の授業の状況												
	⑤	主体的な研修・自己研鑽	ICT活用を充実させ、授業内容と家庭学習を関連付け、個別最適な学習指導に努め、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇EILSやMEXCBTに関する校内研修を行い、教員のICT機器の活用能力の向上に努めた。また、2学期から研究授業を行い、各教科でどのようにICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びに繋げているか教員間で学ぶ機会を設けた。2年生の県診断テストでは、国語、社会、理科の3教科で、御荘中2年生の平均点が県平均を上回るなど成果が見られた。	生徒2-3	37	53	9	2	0	90						
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆研究授業や校内研修を継続し、授業改善に努めたい。ICT機器の活用を基礎的・基本的な学習事項の定着にいかに関結しつづけるか、またどのように主体的・対話的で深い学びに発展させるかなど、各教科でのアイデアを共有する機会も継続したい。令和5年度の「全国学力・学習状況調査」に向けても、準備と研修に力を入れたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・校内研修												
	⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇生徒・保護者ともに肯定評価が8割に達していないため、B評定とした。定期テストの際、家庭学習時間調査を行い、意識化を図った。自主学習ノートの取組では、よい取組例を紹介・表彰して意欲化を図った。しかし、各学年共通の自主学習ノートの取組状況を見ると、所要時間と内容が伴わなかったり、学習内容の定着につながらなかったりする生徒がおり、取組方に個人差がある。家庭学習の内容の充実を図るために、定期的な振り返りや取組方への指導の継続が必要である。毎日の宿題の提出ができていない生徒で、保護者への協力依頼により、改善されてきている生徒も若干見られた。	生徒1-2	26	47	20	7	0	73						
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 B	◆引き続き各教科の宿題と自主学習ノートの取組により、家庭学習の習慣化を図っていく必要がある。取組状況について各教科担任や学級担任、学習支援員が把握し、個別に継続した指導が必要である。また、取組の手本となるノートの紹介や学習委員会による集会等での全校への呼び掛けなど、自主学習ノートの充実を図りたい。また、保護者にも家庭での学習状況を見守っていただけよう、根気強く協力を仰ぎたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組												

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 自主性や主体性を身に付けさせるためには、まずは小グループでの話し合い活動から始めるといだろう。まずは、自分の考えや意見を述べる環境をつくるのが大切である。
- クロームブックを使った授業を継続的に行っていることはよいことだが、クロームブックの活用が効果的であるかどうかの分析はできているだろうか。しっかりと分析を行った上で、今後の指導に生かしてほしい。
- クロームブックの活用に関して、生徒は使いこなせているだろうか。生徒間で差がついてきているのではないだろうか。また、使い慣れたことによる何らかの問題が生じてきているのではないだろうか。常に生徒も教師も、学力の向上に向けた研修が必要である。
- 学習意欲を高めるには、やはり自分の将来に対する目標やイメージづくりが必要だと感じる。何事もやらされているのでは伸びない。「やりたいこと」や「なりたい自分」が見えてくれば、自ずと意欲が高まるだろう。学校はそのきっかけ作りの場として、多くのことを経験させたり、挑戦させたりしてほしい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和4年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
													0	50	90
III 心の教育の推進	⑦	中気持生ららしい言挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	中間期 B	◇生徒・保護者・教職員・地域ともに肯定率が8割を超えているため、A評定とした。2学期は、部活動や学級などの集団での挨拶に加えて、ブロック活動時や生徒会による朝の挨拶運動で、3年生を中心に心地よい雰囲気づくりができた。また、2年生も部活動でリーダーとなり、生徒会選挙運動などに立派な態度で取り組み、頼もしい姿が見られた。	生徒1-7	43	50	6	1	0	93			
			保護者1-2	31		61	8	0	0	92					
	教職員3-3	21	68	11	0	0	89								
	地域1-1	38	56	5	0	14	94								
		学年末 A	◆時と場に応じたマスク着用に移行され、生徒の表情を見ることができ場面も増えつつある。今後は、今以上に「相手に伝わる挨拶」ができるよう、教職員を始め大人も実践し、挨拶によって活気のある学校へと繋げていくことが大切である。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・各行事やあいさつ運動											
	⑧	人権尊重・心の通い合い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が9割を超えているため、A評定とした。今学期は、普段の委員会活動の実施に加えて、差別をなくす強調月間を中心とした様々な広報的活動や短い手紙・人権標語の作成等、人権を意識した学習の機会が広がった。また、校区別人権・同和教育懇談会でも、学年間での発表会や講演会での活動から、自分と周りとの関わりを意識する活動が増えたことが、よい結果に繋がっていると思われる。	生徒1-11	45	46	7	2	0	91			
保護者2-7			42	48		8	2	42	90						
	学年末 A	◇人権委員会の活動だけでなく、人権に関する道徳科の授業、手紙や標語作りなど、人権を意識した学びからの意識の広がりが、生徒一人一人の成長に繋がっていると推察している。今後も、委員会によるエピソードの紹介や「ありがとうメッセージ」の掲示など、学年間を超えて全校へと広がる活動を継続し、共に認め合い、支え合う環境づくりや雰囲気づくりに努めていきたい。また、保護者への啓発的活動にも力を入れていきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果												
⑨	道徳教育の充実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	中間期 A	◇生徒・教職員ともに肯定評価が8割を超えているため、A評定とした。教職員と比べると、生徒の4と評価した数が増えているが、評価2・1と回答した生徒もいることから、道徳科の学習や自分自身の成長の過程に満足していないと考えている状況も見られる。今後も教育活動全体を通じて行う道徳教育を充実させ、生徒に道徳的な判断力や心情、実践意欲、態度を育成していくことが必要である。	生徒2-6	63	32	5	1	0	95				
		教職員6-1	21		79	0	0	0	100						
	学年末 A	◆生徒が道徳科の授業で、多様な考え方や意見に接する中で考えを深め、判断し、表現できる力を育むために、言語活動の充実や問題解決的な学習などを積極的に取り入れる必要があると考える。また、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、適切な評価や指導に生かせるように努めていきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容												

【学校運営協議会における意見・提案等】

○生徒の挨拶については、できていないという意見が聞かれるようになってきた。ただ、先生(大人)はどうだろうか。もう一度挨拶の持つ意味を十分理解した上で、「やらされる」ではなく「自らする」ようになってほしい。小さいころからの経験(積み重ね)は、大人になっても繋がってくる。生徒会が取り組んでいる挨拶運動は、今後も続けていくと効果が高まるだろう。

○価値観の違いを認めたと、自分の思いを相手にしっかりと伝えられる人間関係が、これからも築いていけることを願っている。

○先生のアンケート結果の中にも行事の多忙さがあつたが、生徒や保護者も同じである。多忙故に心と体のゆとりがなくなってしまうのかもしれない。活動自体も「ビルド&スクラップ」でバランスを考えながら進めていき、生徒・保護者・教職員にゆとりができると、学校生活がよい方向に進むのではないだろうか。

○今後もスポーツや芸術を通して、感受性豊かな子どもたちに育ててほしいと願っている。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和4年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合							
													0	50	90					
IV 健やかな体の育成と安全教育・防災教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 A	◇生徒・教職員ともに肯定評価の割合が8割以上だったため、評定をAとした。体育祭やスパルタスロン(ロングウォーク)などの学校行事に積極的に参加する生徒が多かったため、それが体力向上につながったのではないかと考えられる。また、保健体育科の授業では、開始時に補強運動としてランニングを行ったことが、微量ながら前期に比べて、生徒の評価が高くなったのではないかと考えられる。	生徒1-6	43	39	15	4	0	81								
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆部活動では3年生が引退し、2年生主体の活動になった。2年生は、自ら進んで引張る立場となったため、前期の課題であった2年生の体力向上が、改善されるのではないかと考える。今後も保健体育や運動部活動の時間に、個人の課題となる体力の補強運動を継続していくことで、生徒の評価がより肯定的になっていくと考えられる。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果 ・各行事等の反省														
	⑪	安全・安心な学校づくり	持続可能な防災教育の充実を図り、生徒自ら安全確保のために主体的に行動する態度を育成している。	中間期 A	◇前期に引き続き生徒も教職員も9割以上が肯定しているため、評定をAとした。2学期はじめに防災小説についての全校集会を実施し、10月から生徒全員が防災小説執筆を行った。今年度から、防災小説コンテストの評価の一つとして、「より具体的に実際の状況を想定して描くことができたか」を加えたことで、地震や防災について詳しく考える機会になったと考えられる。また、全国防災小説コンテストで他県の生徒の防災小説に触れ、防災への関心が高まったと考えられる。	生徒2-7	71	24	4	1	0	95								
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆定期的に避難訓練が行われ、余震などへの対応も考えて設定されている。生徒が主体的に行動するためには、今後も様々な設定の下、一つ一つの行動を強く意識させることが必要だと考える。また、昨年度からスタートした全国防災小説オンライン交流会が2回目を迎え、多くの収穫がある一方で、更なる充実を図るための持ち方の工夫が必要である。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・避難訓練・防災学習(砂防学習会等)の様子 ・全国防災小説オンライン交流会の感想														
	⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期 B	◇生徒の肯定評価が8割に満たないため、評定をBとした。中間期よりも更に低い評価となっている。毎月の健康チェックでも1時以降に寝ている生徒もいる。また、ネット端末の使用が平日でも3時間を超えている生徒も見られる。朝ごはんについては、食べない生徒はほぼ同じである。しかし、毎月の健康チェックにおいて、朝ごはんの内容は、今年度初めの頃よりよくなっている生徒が多く見られるようになった。	生徒1-9	41	30	22	7	0	71								
			【目標値】 生徒の8割以上が肯定	学年末 B	◆ネット端末の使用や睡眠については、守らなくてはという意識が低下してきている。再度、生徒会を中心に、生徒自身が考え行動を選択するような方法を考え、取り組ませていきたい。また、個人的にも啓発できるように、今後も健康チェックやネット端末の調査を効果的に活用して働きかけを継続していきたい。基本的な生活習慣の定着は、学校だけでなく家庭との連携が必要であるため、連携をどう図って取り組んでいくか考えたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果 ・毎月のネット端末利用状況調査														

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 県下でも体力低下が叫ばれている。授業中でのランニングや補強運動は、けがの防止や循環器等の発達を促す効果があるため、大変重要である。今後も継続してほしい。
- 防災に関しては、常に最悪のケースを考えて、継続した訓練が必要である。防災小説の充実ぶりには、とても感心している。
- スマホは多くの生徒が持っており、それが手放せない状況である。その使用方法に関しては、単に「ダメ」というのではなく、愛媛県のアプリ等も効果的に活用しながら、生徒自身に考えさせていかなければならない。また、今は生徒一人一人にクロームブックがある。様々な制限はあるが、その中でも効果的な使用方法(プログラミングや部活動での分析等興味があること)を考えることで、少しでもスマホ依存からの脱却を考えてもいいのではないだろうか。
- 生活習慣の改善は難しいが、子どもの発達段階に応じて保護者が対応していくことが理想的である。子どもの成長期は、身体的にも精神的にも、後の人生を左右するほどの大切は発達段階であることを、改めて保護者、生徒に理解させる必要がある。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和4年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合									
																	0	50				
V 家庭や地域とともにある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇前期と同様に、教職員・地域ともに肯定率が9割以上であるため、評定をAとした。総合的な学習の取組として、造形の日や修学旅行、職場体験学習、講演会等を実施できたことが、目標値の達成に繋がったと考える。特に職場体験活動では、地域での交流を通して、働くことの意義や地域のよさを実感した。また、これまで実施できなかった学校外でのボランティア活動にも30名以上の生徒が参加している。	教職員4-2	63	37	0	0	0	100										
			【目標値】 教職員・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆社会福祉協議会での職場体験活動がきっかけとなり、ボランティア活動の依頼が増えた。今後もボランティア活動や公民館行事、地域行事に積極的に参加することで、地域とのつながりを深めることが大切だと考える。	地域2-2	37	60	3	0	5	97										
							〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・総合的な時間の学習後の反省 ・各行事後の反省															
	⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズに対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇中間期と同様に、保護者・教職員ともに肯定率が90%以上であるため、評定をAとした。学校内で日常的に行われている情報交換は、継続していく。また、特別支援教育に関する情報を、可能な範囲で積極的に公開し、保護者と生徒の成長について共に考える機会を増やすよう努めていく。	保護者2-7	42	48	8	2	42	90										
			【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆保護者の「評価？」の割合が高いこと、また「評価1・2」の方が複数いることが課題である。学校での取組についての理解を深めていくために、HPや御荘中通信、各種「たより」の中に、情報を織り交ぜていきたい。また、関係機関との連携を増やし、学校内の情報だけでなく、関係機関に関する情報も発信していきたい。	教職員5-1	47	47	5	0	0	95										
							〈自己評価アンケート以外の評価材料〉															
⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者・地域の9割以上が肯定的回答であるため、評定をAとした。HPの日々の更新、御荘中通信、各種「たより」の定期的な発行による情報発信の様子が、保護者・地域の肯定的回答に表れている。今後もクロームブックを活用しての、生徒と学校との双方向のコミュニケーションやHPの更新を継続し、情報発信に努めていく。	保護者2-9	46	49	5	0	2	95											
		【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	学年末 A	◆校内研修で、HPの記事の更新についての実技研修を行った。しかし、同じ教員による更新が中心となっているのが現状である。充実したHPの公開のために、多様な職員による発信を目指していく。全職員がICTに関する研修を行ったが、学んだことを生かして、常に情報の管理や発信等の危機管理意識を持つておく必要がある。	地域2-3	67	28	6	0	3	94											
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・HPの閲覧状況 ・各種たより ・参観日																

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 教職員・生徒が同じチームとして、地域と密接に繋がっていくことが、地域の発展にも繋がる。今後も地域とのつながりを継続させてほしい。
- 「特別支援教育の充実」に関する質問に対して、分からないと回答している保護者が多い。学校側は一定の取組を行っている。それをできる限り情報発信できるとよいが、書面等では難しい面もあるだろう。参観日等の保護者が集まる場で、話をすることも効果的ではないだろうか。また、発問が本当に一部の生徒だけに対する取組のように見えてしまうので、保護者が子どもとの会話の中で、普段の様々な取組の確認ができるような、分かりやすい問いかけにしてみることも必要である。
- ボランティア活動を笑顔で参加する生徒の様子をHPで見て、こちらも笑顔になる。制限がある中でも、今しか経験できないことを通じて、やりがいや喜びを感じてほしい。
- 「地域とつながる教育」も「開かれた学校づくり」もよく取り組んでいると感じる。今後も継続してほしい。より地域の方に活動の様子を知っていただくための手立てとして、学校通信以外にも学校の活動がCATVで放送される場合は、HPなどを通じて放送時間を伝えることで、より学校の様子を見ていただくチャンスになるのではないかな。